


IAM MARKET INSIGHT
マーケット・インサイト

2026年3月2日

代表取締役社長 秋野 充成


 いちよしアセットマネジメント

今週のポイント

衆院選を経て高市高圧経済※1政策の推進力が増したことや米株式市場での物色の変化を背景に2月の日本株は大幅に上昇

2月の国内株式市場は大幅上昇となりました。2月27日、日経平均株価・TOPIXは揃って終値での最高値を更新し、1月末比ではともに10.4%の上昇となりました。大幅上昇のきっかけは、同月8日投開票の衆院選において自民党が大勝したことです。高市首相の政権基盤が強固となり、高圧経済政策の推進力が増したことから、国内外の投資家の期待感が高まりました。海外投資家は2月第1週から第3週まで、現物株を2兆円以上買い越しています。

米株式市場における物色の変化も、日本株を後押ししました。ゴルディロックス(適温相場)シナリオが継続する中、大型テック株への集中相場から、景気敏感株への分散が明確になっています。さらに、アンソロピック・ショック※2が製造業への資金シフトを加速させ、海外投資家の日本株選好姿勢を強めました。日本同様、韓国・台湾株への資金流入も大きく、韓国株(韓国総合)は1月末比で19%(米ドルベース)、台湾株(加権)は13%(同)の上昇を記録しました。

米国とイスラエルがイランを攻撃。予断を許さない状況ではあるものの、現時点で原油価格の上昇は限定的と想定

2月28日、米国とイスラエルがイラン攻撃を開始しました。米トランプ大統領は同日、米国とイスラエルがイランに対して行った大規模軍事作戦で、イランの最高指導者アリ・ハメネイ師が死亡したと発表しました。イラン側もハメネイ師の死去を確認しています。イスラム教シーア派の宗教指導者を頂点とするイランの体制が大きく揺らぐのは必至で、体制転換に向けた動きは極めて重大な局面を迎えています。

マーケットへの影響は予断を許しません。ポイントは、「戦争状態が長期化するのか?」、「原油価格が大幅に上昇するのか?」、「イランの現体制が転換するか?」、「中東全域で反米感情が爆発するか?」等です。どれも現時点において即断できませんが、米国、ロシア、中国の関係は良好であること(あくまでも表面的ながら、米国とロシアはウクライナ問題への協調を優先。米国と中国は貿易問題での協調を優先)、イランにおける反体制勢力の存在が大きくなっていること、米国とサウジアラビアの関係は良好(2025年11月にはムハンマド皇太子が米国を公式訪問し、トランプ大統領と会談。防衛やエネルギー、鉱物資源、先端技術など多岐にわたる分野で両国の協力拡大に関する合意が発表された)であることなどを踏まえると、戦争の長期化はなく、原油価格の上昇は限定的と想定しています。仮に、イラン情勢で世界的に株価が大幅に下落する場合は、冷静にポジションテイクするべきです。

～ワンポイント用語集～

※1 高圧経済…積極的な金融緩和と財政政策により、意図的に需要超過(インフレ)状態を継続させ、雇用の最大化、設備投資の促進、そして生産性向上を通じて持続的な経済成長を目指す考え方のこと。

※2 アンソロピック・ショック…米アンソロピックが法人向けに開発した、高度なAIモデルを搭載した自動化ツール「Claude Cowork(クロード・コワーク)」が、既存のソフトウェア企業のビジネスモデルを破壊するとの懸念から株式市場で関連株が急落した現象。